

DX化で業務改善した生産システムが自社の強みと認識

本 社 〒721-0961 広島県福山市明神町1-3-7

U R L <https://hinooribakoten.com/>

業 務 内 容 折箱の企画・製造加工・販売 ほか

設 立 1971年 **資 本 金** 1,000万円 **従 業 員 数** 10名（2024年）

日本特有の食品容器である「折箱」（使い捨て発泡容器）の製作を手掛ける。婚礼・法要の仕出し弁当から、会議・接待用のビジネス弁当、和菓子・洋菓子用の容器まで用途は様々。高い技術の人の手とそれをサポートする設備を備え、顧客のニーズ・予算に応じてオーダーメイドの折箱を提供。



代表取締役社長 日野貴文氏

■ 相談のきっかけ

折箱製造はニッチな分野であるものの、ここ数年で需要が急増中。同社は、製作者の技能が肝となる折箱業界において同業他社への「作業工程改善」に関する技術コンサルタントを新事業として手掛けている。その際のノウハウ流出を危惧した地元商工会が営業秘密管理の導入を勧め、INPIT営業秘密支援窓口を紹介し、知財戦略エキスパート（以下「知財EX」）による支援が開始した。



■ 知財戦略エキスパートの支援内容

（１）秘密情報の洗い出し～秘密情報管理台帳の整備～

日野社長は、働きやすく風通しの良い作業現場があり、従業員のストレスや負担を軽減することが、良い商品を作り出す第一歩であるとの考えから、日々現場の改善を模索している。

特に、生産管理システム導入によるDX化を推進し、作業効率アップを実現していたものの、それが自社のノウハウであると認識していなかった。

そこで知財EXは、システム内に商品ごとに整備・蓄積された作業指示書や部素材リスト、在庫・在庫数、仕入先情報などが、秘密管理すべき重要なノウハウである旨説明し、自社情報と他社情報を明確に区別しながら各生産工程を整理し、秘密情報管理台帳へリストアップするよう助言した。また、同様の視点で他部門（生産部門・経理部門など）の情報も精査し、台帳にまとめるべく支援を実施した。

支援企業の声

自社のノウハウを守るために営業秘密管理に取り組みました。私自身、何が秘密のボーダーラインなのかははっきりしておらず、最初は戸惑いの連続でした。何度も打合せをしていただいたお陰で、秘密情報の整理を行うことができ、また同時に社内規程の作成も支援いただき、無事キックオフに至りました。今後もフォローを頂きながら、営業秘密管理についてさらにブラッシュアップを図りたいと思います。（代表取締役社長 日野貴文氏）

知財戦略エキスパートのコメント

同社は、新たに購入した機械を改良し生産し易い方法に変更するなど、社長の多くのアイデアが実際の現場に反映されていました。当初は、改良生産システムは一般的なものであって特別なものではないと言及されていましたが、今回の営業秘密支援によりその認識が変わったことで、同社のノウハウは何か＝何を守るべきかが明確になり、社長が進めてきた取組も営業秘密の対象として管理することができました。同社が益々発展することを期待しています。（知財戦略エキスパート 飯島敏夫）

（２）従業員の意識向上～秘密の明示～

営業秘密として保護されるためには、従業員が秘密情報と認識できるように管理されている必要がある。そこで同社は、生産管理システムで発行する全ての書類に「社外秘」と押印し、特に従業員が手に取る作業指示書などには「マル秘」を記載するなど、秘密情報の見える化を図った。

また知財EXは、新規に購入した製造機械を改良して生産効率を上げた工程や、日野社長が進める他の業務効率化の取組（画像付き指示書やラベル発行、送り状の一括送付など）についても明文化し、営業秘密として管理するよう助言を行った。特に、乾燥時間が必要な作業工程について、同社では特別な接着剤を利用することで乾燥時間を大幅に短縮し、生産性向上を達成している。知財EXは、これは同社の強みであり、秘匿すべき重要なノウハウである旨を説明し、従業員とも認識を共有するよう助言した。

（３）情報管理体制の強化～社内規程類の整備～

知財EXは、社内ルールの整備に向け、経済産業省が公開している秘密情報管理規程や秘密保持誓約書などの規程類の雛形を同社に提供し、それに基づき同社が整備した内容に不備がないかどうか綿密な確認を行うことで、策定を支援した。また同社が営業秘密管理の実運用をスタートさせるにあたり、上記規程類の運用の意味や企業における秘密保持の重要性について、知財EXが講師となり全従業員向けにガイダンス（キックオフミーティング）を実施した。

適正な営業秘密管理を継続するためには、今後同社が既存事業の拡大や新事業への進出を展開する際に生まれる新たなノウハウについても、順次データ化・文書化を図ることが求められる。引き続き知財EXがフォローアップしていく。